

やすらぎ

日本聖公会 九州教区 福岡聖パウロ教会
〒810-0045 福岡市中央区草香江 2-9-22
TEL 092-751-0097 FAX 092-751-9916
発行人 司祭 バルナバ 牛島幹夫

256号

2021.6.20 発行

YASURAGI



「絶望と感謝」

主教 ルカ 武藤謙一

以前牧師として働いていた教会の信徒の方から手紙をいただきました。2018年に東京の大学を卒業して母校に就職した息子さんが、働き始めてわずか一ヶ月後に交通事故にあい、意識不明の重体になり、懸命の治療によって一命をとりとめました。今も遠方の専門病院に入院中で、少しずつ笑ったり、首を動かしたり、ペースト食を少し食べられるようになりましたが、自力で歩くこと、話すことはできないとのことでした。

事故直後には、神様はおられるのだろうか、たった22歳の息子の手足が何故動かないのだろうか、どうか意識が戻りますようにと、目を覚ましてから眠るまで、ずっと息子さんのことを思い祈ったそうです。東京にいた二人のお姉さんたちも近い将来自宅に帰ってくる弟のために地元に戻り、一緒に住むことを決めたとのことでした。息子さんの回復を願い、祈り、葛藤し、コロナ禍で面会も出来ず、本当に壮絶な日々を過ごされます。「私は毎日祈り、迷いながら思います。これは神様からの愛なのでしょう。まだ私には真理が分かりません。ただひたすら祈り、思い、私たち家族が息子を全身全霊で愛していることだけは真実です」と記し、次のように結ばれていました。「『信仰』と『希望』と『愛』が日々の祈りとともに、どん底の私を救ってくださり、生きる力を与えてくださいました。絶望と感謝はいつも私の中で一体です。」

わたしはこの方の息子さんや家族に対する深い愛情と、こんな不条理なことがありつつもなお絶望と感謝をあるがままに神様に差し出す姿に感動し、また励まされます。

神様がおられるのに何故、こんな辛い出来事を体験するのはどうして、と思うことがきっと皆さんにもあるだろうと想像します。創世記4章のカインとアベルの物語もそのような物語として読むことができます。神様はアベルの献げ物は受け入れますが、カインとその献げ物には目を留められません。その理由は何も記されていません。分からないのです。献げ物を受け入れられなかったカインは「激しく怒って顔を伏せ」ます。そのカインに対して神様は「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もし、お前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない」と言われます。怒って顔を伏せたカインは罪を支配することができずに、アベルを殺してしまいます。神様がカインに願ったこと、カインがなすべきことは怒って顔を伏せることではなく、神様に向けて目を上げ、「どうしてですか」と問うことだったのです。すぐに答えが得られなくても「どうしてですか」と目を上げて問い続けることだったのです。顔を伏せることは神様との関係を断つことです。

事故に遭われた息子さんを真ん中にして、絶望と感謝の日々を過ごされる家族の皆さんの生活は、顔を伏せることなく目を上げて問い続ける信仰の姿そのものです。